

葉山町で活動するボランティア団体等が集まり、
まちの防災について考えています。

はやま 防災ネットワーク ニュース

昨年の台風 15 号・19 号のときに起こった停電 —— 節水の呼びかけや断水は、その停電が原因でした。これから台風などで停電が心配されるときには、懐中電灯を用意するのと一緒に、是非、断水になったときの準備を始めてください。

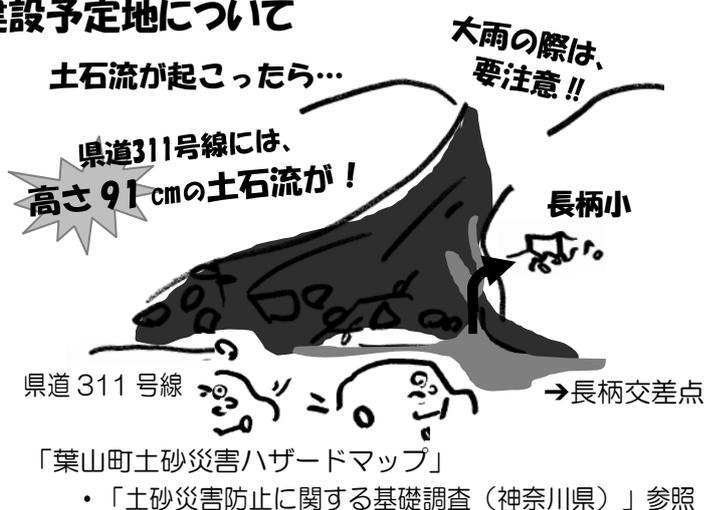


今号では、台風 15 号・19 号のときの町内の上下水道施設の様子や、断水になったら“やっぱり困るトイレ”について、その対策をお伝えします。

給食センター建設予定地について

葉山町では、現在、たいへん大きな土石流（裏面「土石流について」参照）が予想されている場所（長柄小横の谷部分）を開発し、給食センターを建設する計画を進めています。

この給食センター建設予定地は、土砂災害防止法にある「土砂災害特別警戒区域」——建物の中にいても人の身に危険の及ぶ恐れのある場所——に指定されています。（2月に逗子で起こったがけ崩れによる痛ましい事故は、この区域よりも危険度の低い「土砂災害警戒区域」——屋外にいた人の身に危険の及ぶ恐れのある場所での出来事でした。）





台風、停電！…断水？① 避難所(一色小)にて

台風19号(10月12日)が葉山町付近を通り過ぎようとしているところ——かなり強い風が吹いている中、たくさんの方が避難する一色小の体育館で、突然、電気が消えてしまいました。停電です。すぐに用意していたランタンをつけて明かりを確保したものの、トイレの方から、「水が出ないよ～」という声が聞こえてきました。停電で、学校の加圧ポンプが止まっての断水でした。

幸い、避難所の開設に駆けつけた町の職員の方たちが、大きなポリタンクに水を用意してくれていたため、トイレはその水を使うことにしたものの、バケツでザーと水を流すのはちょっと難しく、床はすぐにびしょびしょになってしまいました。



台風15号の際、葉山町や神奈川県から入った節水の呼びかけも、葉山町内の配水を広く担っている桜山低区配水池(下図「葉山町の配水」参照)のポンプが停電で停止してしまい、配水池に水を揚げるができなくなったからだそうです。そのときは、配水池内に既に貯められていた水で大きな断水は免れたものの、もう少し停電が続いていたら…？停電が心配される際には、停電になる前に、生活に必要な水の確保を始めてください。



でも、停電になったら節水のご協力を！



神奈川県営水道では、断水・濁水の情報や、大雨のときのダム放流などの情報をLINEで配信しています。(右QRコードから受信設定できます。)



台風、停電！…断水？③ 下水道にも影響あり

台風15号では、私たちの生活排水を処理している浄化センター(長柄)のある地区も停電になりました。生活排水を処理するのにもやっぱり電気が必要です。今回は、浄化センター内の自家発電設備を使って処理を続けたものの、自家発電設備も長く頼れるものではありません。停電が起こったら、排水のことも考えて水を使う必要があります。

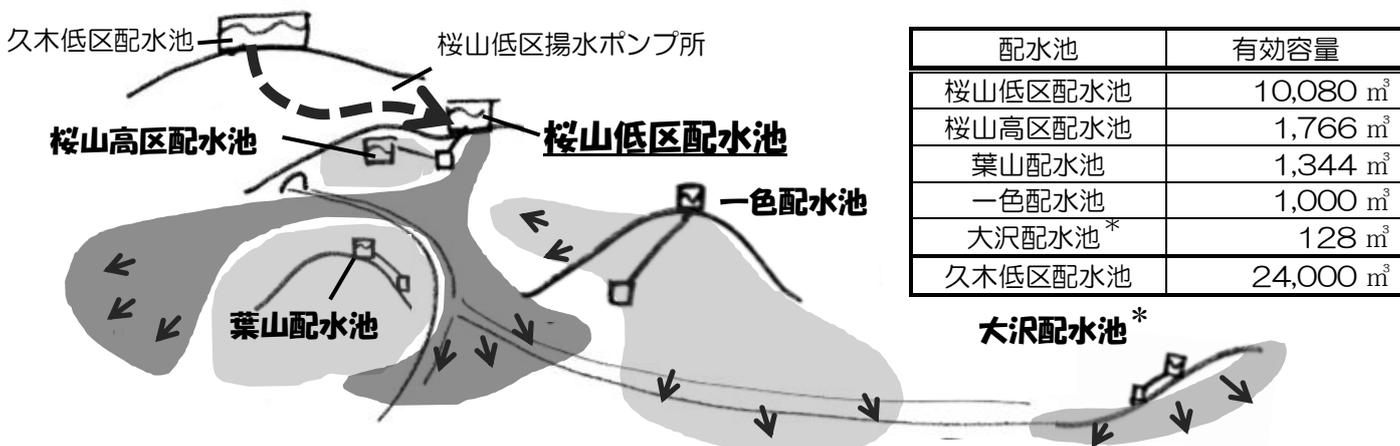


台風、停電！…断水？② 桜山低区配水池の水、残りわずか

台風19号のときの避難所(一色小)のように、停電で水を送るポンプが稼働しなければ、水道にも影響がでます。

葉山町の配水池

葉山町内には、主に桜山低区配水池から、水が高い場所から自然に流れ下る形で、広く配水が行われています。また、町内の高台の地域には、桜山低区配水池からの水を、地域内のポンプ所から高い場所にある地域配水池(3か所)に再び揚水した上で、配水されています。地域が停電になったら、地域内のポンプ所も停止に。



配水池	有効容量
桜山低区配水池	10,080 m ³
桜山高区配水池	1,766 m ³
葉山配水池	1,344 m ³
一色配水池	1,000 m ³
大沢配水池*	128 m ³
久木低区配水池	24,000 m ³

桜山低区配水池には、寒川浄水場で作られた(浄水された)水が、久木低区配水池を経由して供給されています。
*大沢配水池には、綾瀬浄水場からの水が供給されています。

町の下水道課をたずねると——葉山町内の下水道施設（一部を除く）は、雨水と生活排水等（汚水）とを分けて処理する分流式だそう。雨水は側溝へ、生活排水等（汚水）は排水管を通して浄化センターに集められ浄化された後、河川へ流されます。



ただ、地下を通る排水管にはどうしても雨水等が入ってきてしまうとのことで、お話を伺いながら、大量の雨水が地面を流れ続ける台風等のときには、河川や側溝から溢れる雨水だけでなく、排水管から溢れる水についても心配になりました。

普段から気を付けておきたいことを伺うと——「台所の排水口から油を流すと、排水管の中で油が固まって、普段の生活排水は流れていても、水量が多くなれば逆流する可能性があります。（それから）家庭から伸びたパイプ（排水設備）が汚水ます*に正しく接続されていないと、雨水などが排水管に流れ込んだり、逆に汚水が敷地に流れ出たりと、こちらもたいへんなことになってしまいます」。

*公共の下水道は、家庭の敷地内等に設置されている公共汚水ますに、家庭のパイプ（排水設備）を接続して利用しています。接続工事は、正しい接続のできる葉山町下水道排水設備指定工事店へ（葉山町 HP に指定工事店 - 覧）パンフレット『葉山町のきれいな川と美しい海を守るために』参照

台風、停電！…断水？④ うちのトイレを使うには？

台風の時だけでなく、地震のときも、自宅に被害がなかったら、避難はせずに自宅に居たい。…そんなときのトイレ対策として、事前に確保した水を使う方法（注）もありますが、便座にポリ袋を被せて使う“携帯トイレ”は、すぐに役に立って便利です。一般に、ポリ袋と凝固剤がセットになって売られています。

注1（十分な水が確保できないときには）パイプがつまらないように、使用したトイレトーパーは流さずポリ袋へ入れて別に処理を。

注2（地震のときには）パイプが破損している可能性もあるので、漏水の危険も考えて、2階トイレやマンションなど（上階までパイプがのびているお宅）で水を流す際は慎重に。

では、携帯トイレを使うときの手順を紹介します。まずは、トイレの床をびしょびしょにしないためのひと手間から。

携帯トイレの使い方

- ① 携帯トイレのほかに、ポリ袋（1枚）、養生テープを用意



- ② 便座を上げて、別に用意したポリ袋を、便器に直接かぶせます。



- ③ ポリ袋は、養生テープなどで固定



水道が復旧するまで外さないつもりで固定してください。

- ④ ポリ袋の上から、携帯トイレを被せて

携帯トイレは、便座の上からでも、下からでもOK



- ⑤ 使用した後は、凝固剤で固めて

凝固剤のタイプはいろいろ（はじめに入れるものもあり）携帯トイレの指示に従ってください。



- ⑥ 便器から外した携帯トイレは、口をしっかりと縛って

臭い対策に、紙おむつ用ごみ袋等に入れても



- ⑦ 町の回収があるまで、一般ごみと分けて保管を！



『チームトイレの自由』HP (<https://toilet.ne.jp>) 参照



台風19号ではたくさんの方が避難しました！ 避難所の体験から

台風19号のときに、避難所に避難したみなさんや運営に関わったみなさんに、避難所での体験を伺いました。葉山町に暮らすみなさんの実体験による“避難所”情報です。これからの避難の参考に。

(1) 避難所への避難

- ・ 駐車場が足りなくなったので、車での避難者には、家族を降ろした後、車を家に置いてきてもらいました。
- ・ 葉山小の体育館が避難者でいっぱいになったため、葉山中にも避難してもらいました。
- ・ 車いすを使用する方など、障害を持つ人たちに教室を開放しました。教室の開放には、PTAのみなさんが協力してくれました。

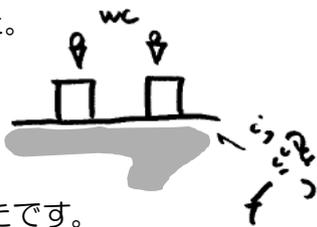
(2) 情報の共有

- ・ 避難しているみなさんで情報共有できるよう、避難者数等を紙に書いてボードに貼りだしました。
- ・ 葉山町内の様子を報告しあうページがフェイスブックに立ち上がりました。



(3) 断水時のトイレ利用

- ・ (断水時)トイレトーパーを使っていたためトイレは詰まりがちでした。
- ・ 介助の必要な人に付き添ってトイレにいきましたが、異性のトイレは入りづらかったです。
- ・ 断水時は、手洗い用にウェットティッシュも必要です。



(4) ペットの避難

- ・ 数日間、犬などの毛が舞って掃除に苦労しました。アレルギーの心配もあるので、毛が舞わないよう、ペットはケージに入れて、ケージには布等を被せてほしいです。



(5) その他

- ・ 備蓄倉庫と体育館とが離れていたため、資機材等を運ぶのがたいへんでした。
- ・ 体育館内で待機するには、履物が必要です。
- ・ はじめは、避難者に毛布を一枚ずつ配布していましたが、途中で足りなくなり、1家族1枚になりました。
- ・ エアマットを持ってきた人もいました。

(6) 提案

- ・ 避難所の受付では、宿泊時に不安なことはないか、また、避難所の手伝いをお願いできないか、声をかけてもよかったのではないかと思います。

(参考) 土石流とは (給食センター建設予定地について)

土石流は、大雨をきっかけに、谷や斜面にたまった土砂が、水と一緒に一気に流れ出して起こる災害です。その中には、流木はもちろん、大きな岩を含む場合もあり、速いスピードと強い力で、人命や家などの財産を奪い、道路などの都市基盤にも被害を及ぼします。(国土交通省関東地方整備局 HP 参照)

『葉山町土砂災害ハザードマップ』では、給食センター建設予定地(長柄小横の谷部分)に、葉山町内でもたいへん大きな土石流(1m 近い高さの土石流が長柄小側から県道 311 号線を超えて森戸川まで到達する)が起こる危険のあることを示しています。

■ 土石流特別警戒区域 ■ 土石流警戒区域



「葉山町土砂災害ハザードマップ」参照

はやま防災ネットワークは、以下の団体会員のほか、個人会員、賛助会員で構成されています。

NPO 法人いつでもここで
NPO 法人ワーカーズ・コレクティブのぞみ
ケアフレンズ葉山
介護付有料老人ホーム ライフコミュニケーション葉山
逗葉ろうあ協会
葉山高齢社会をよくする会
葉山手話サークルクローバー
葉山町手をつなぐ育成会
葉山はばたき(社会福祉法人湘南の凧)
葉山町ボランティア連絡協議会

発行 はやま防災ネットワーク
〒240-0112 神奈川県三浦郡葉山町堀内 2220
社会福祉法人 葉山町社会福祉協議会内
はやま防災ネットワークレターボックス
FAX 046-876-1873
メール hayamabousainet@gmail.com